

きゅうもぎけじゅうたく

旧茂木家住宅

ねん 年
くみ 組
ばん 番

なまえ 名前 ()



いばらきけん 茨城県の指定文化財(大切に保存するもの)に登録されています。

① 旧茂木家住宅は、元禄年間(約 げんろくねんかん やく ねんまえ 年前)の古民家で、旧牛堀町(今の きゅううしほりまち いま 市)にありました。住んでいたのは、()など、村の世話役を行っていたひとです。

② 【外側に注目しよう！】

きづ 気付いた事を書いてみましょう。

やね 屋根は・・・

かべ と 壁や戸は・・・

どだい はしら した 土台(柱の下)は・・・

③【内側に注目しよう！】

気付いた事を書いてみましょう。

ゆか あしもと 床(足元)は・・・	はしら てんじょう 柱や天井は・・・	その他・・・

④ 旧茂木家住宅についてまとめよう

■ 屋根は、ススキなどの仲間の()という植物でできています。

このようなつくりを()屋根といいます。

■ 壁は()で、戸や窓は()でできています。

■ 柱には、「手斧」という道具でけずった()があります。

■ 土台(柱の下)には()が置かれており、すき間ができています。

◎ これらは、夏に湿気が多いという日本の()に合った特ちょうです。

■ 床(足元)は、木の板が敷かれている所と、()でできている所に分かれています。

■ 木の板が敷かれている所の中心には()があります。

■ ()でできている所を()といいます。ここには、()

などがあり、食事を作るために煮炊きが行われていました。

■ 旧茂木家住宅の中で最大の特ちょうは()が無いことです。

このような家のつくりを()建てといいます。